

令和2年度学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月29日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1)学力向上進学重点校エントリー校、SSH 指定校にふさわしい生徒の学習希望や進学希望に応える教育課程の編成 (2)学習効果を高める ICT を利活用した教育の開発と提供 (3)SSH 教育の推進及び成果の発信 (4)グローバル人材の育成	①学力向上進学重点校エントリー校、SSH 指定校にふさわしい新学習指導要領に基づく教育課程の編成 ②ICTを利活用した効果的な教育方法の組織的な開発研究 ③探究活動の研究開発や成果発表機会拡大及び国内外の教育機関との教育交流 ④多様な文化や価値観を尊重する態度を育成するとともに、交流の機会を創出し、国際性を培う。	①職員研修の実施を通して課題を整理し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った教育課程の編成作業を進める。あわせて授業改善の充実を図る。 ②課題の配信・提出、オンライン授業等 ICT 活用方法を共有し、授業の質の向上を図る。 ③生徒の成果発表の機会を充実させ、全ての教員が探究活動の支援に積極的に関わるとともに、職員研修を実施する。 ④探究活動の中に英語で表現することを取り入れるほか、国際交流やコンテストなどへの参加により、異文化理解を深め、英語による実践的運用能力の向上を図る。	①課題を整理し、SSH 指定校・学力向上進学重点校エントリー校にふさわしい教育課程の編成ができたか。 ②各教科で目標及び目標達成のための具体的手立てを確立し、適切にICTを活用して授業研究に臨めたか。オンラインを用いた課題配信・意見の共有などを行ったか。 ③④探究活動の成果発表を英語で行えたか。国際交流を進められたか。資格試験やコンテスト等への参加の機会を拡大できたか。異文化理解を深められたか。	①学校目標や育てたい生徒像を校内で共有しながら、新教育課程の編成を行なった。 ②オンライン授業対策チームを組織し、教員のスキルアップを図るとともに、生徒家庭環境に応じた必要機器支援を行った。 ③外部コンクールや発表会の参加数、「Meraki ラボ」を活用する生徒が増加した。「総合的な探究の時間に向けた職員研修を実施した。 ④1学年生徒対象「たま国際プログラム」を実施し、多文化共生や異文化理解を深めた。PDA 高校生即興型英語ディベート大会で全国大会に出場するなど、優秀な成績を収めた。	①生徒に必要な資質・能力や知識・技能を鑑み、新教育課程編成と授業改善に取り組む。 ②授業時間数や進捗など、生徒の学習状況を常に把握し、困難な状況でも対応できるように教員の ICT スキルを高める。 ③組織的・計画的に「メラーボプロジェクト」「TAMA SSH セミナー」の取組を充実させ、各種コンクール等の出場を支援する。 ④探究活動で英語発表する機会を増やすべく、留学生に支援を依頼するなど、人材確保に努める。また、英語資格試験の受験やスピーチコンテストへの参加を一層促す。	①コロナ禍の困難な状況においても学力重点校にふさわしい、劣ることのない取り組みができたことは素晴らしい。 ①生徒にどのような力を身に付けさせたいのか、生徒の変容を何をもって、どうとらえるのかが明確になっているとよい。 ②オンライン授業としてグーグルクラスルームの活用等で不安の軽減が図れた。 ②授業の ICT 化が加速しているが、生徒側の ICT 環境差を学校側がどう認識し、どういう手立てを講じるのかが大事である。	①育てたい生徒像を校内で共有しながら、新教育課程の編成を行なった。また、全教科で2度の教科横断的授業を開催し、授業改善のきっかけとなった。 ②臨時休業及び分散登校期間における学習保証として、オンラインによる課題配信や生徒からの提出物の集約を行った。特に双方向の対話が必要な科目もあることから、各教科が配信する課題の分量や配信の時間帯、評価の観点などを整理し、校内で活用等で不安の軽減が図れた。 ③「総合的な探究の時間に向けた指導体制作りと指導のポイント」について職員研修を実施し、組織的な対応に努めた。 ④探究活動において英語で発表する機会を段階的に設けたり、海外で活躍する研究者や在日の研究者・留学生と交流する機会を設けたり、多文化共生や異文化理解についての理解を深めたりした。	①変化する時代に対応できる生徒に必要な資質・能力や知識・技能について校内の職員と共有しながら、引き続き新教育課程の編成と授業改善に取り組む。 ②各教科での ICT 活用事例や授業実践例を校内で共有し、全校的に教員の ICT スキルを高める。 ③引き続き組織的・計画的に「メラーボプロジェクト」「TAMA SSH セミナー」の取組を充実させ、各種コンクール等への参加を促し、成果普及の機会を保障と効果検証を行う。 ④探究活動において英語でプレゼンテーション等を行うことにより、自己表現能力の伸長と異文化理解、国際理解をさらに深化させる。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	(1) 自他を尊重し、多様性を認める社会を担う自立した人材育成 (2) 文武両道の堅持 (3) 行事、部活動と学習面の高度な両立を目指す生徒のバランスの取れた学校生活の支援体制の充実と関係機関との連携	①生徒一人ひとりが、自他を敬愛し、礼儀を重んじ、自由と責任をわきまえて行動する姿勢や態度を育てる。 ②学力向上進学重点校エントリー校における学びと歴史ある行事や部活動等を両立し得る自律力の育成を図る。 ③校内の教育支援体制の強化と外部支援機関と関係構築する。	①地域との協調を重んじ、マナーと社会性ある行動を身につけさせるため、通学指導を毎月行う。 ②生徒の自主性や創造性を尊重し、自ら課題を発見、解決できるよう生徒を指導する。 ③心身共に健康的な学校生活が実現できるよう学校内外の教育相談等の機能を十分に活用した支援を行う。	①生徒が責任と社会性のある行動を取り、地域からの苦情等が減少したか。 ②トラブルなく円滑な学校行事、部活動等が行えたか。また、生徒の活動内容の満足度が80%以上か。 ③支援教育校内連絡会及び支援教育相談担当者会を推進し、早期対応できたか。	①近隣からの大きな苦情無く、地域に信頼される通学を行うができた。 ②コロナで多くの変更が求められたが、生徒が課題解決して行事を計画、運営できた。 ③支援教育校内連絡会は、校内実状把握として有効活用できた。支援教育相談担当者会では迅速な生徒情報交換により課題改善に対応できた。	①基本的な通学マナーについては、繰り返し周知する必要がある。 ②生徒会活動の活性化と行事・部活動と学習の両立を図る。事故防止に努め、充実した活動に向け支援する。 ③学習面の不安からくる不適応など生徒の心身の状況を早期に見極め対策をやケアを行う。	①コロナでの活動自粛がある中で、通学、体育祭で近隣からの苦情がなかったことはよかった。 ①自発的な地域貢献プログラムが生徒側から企画されるとよい。 ③世の中の状況を鑑み、生徒の心身のケアをお願いしたい。	①近隣から生徒の通学やルールマナー等に対するクレームはほとんどなく、教育活動を全うすることができた。 ②部活や学校行事はコロナの影響をおおいに受けたが、感染対策を講じながら可能なものは実施することができた。 ③支援教育校内連絡会を開催して、個々の生徒情報を共有し、組織的に対応することができた。	①今後も日常的に生徒に注意喚起を行い、本校生徒としての自覚を持って行動できるよう継続指導にあたる。 ②コロナの状況を見ながら、部活や学校行事等の活性化を図り、事故防止に配慮しながら生徒の自主的な活動を支援する。 ③今後も教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、外部機関等とも連携し、支援が必要な生徒の対応にあたる。
3 進路指導・支援	(1) 学力向上進学重点校エントリー校としての難関大学、スーパーグローバル大学等への進学に向けた組織的な進路支援体制の構築と推進	①正確でタイムリーな情報提供及び3年間の成長過程に合わせた多様なキャリア教育の構築と推進。 ①既存の取組における科学的、	①探究活動、進路ガイダンス等をとって上級学校等が求める学生像を理解すると共に学際的な興味・関心を喚起する支援を行う。 ①大学共通テスト	①進路研修会を実施し、生徒一人ひとりのデータ等の蓄積から具体的な進路指導に繋げたか。 ①ガイダンス指導や面談指導を適宜実施でき	①模試の自宅受験やウェブ聴解テスト等を実施した。 ①5教科7科目を基本に、出願指導した。 ②指導力向上のため進路研修会や出願指導検討会等を	①進路実現に対するメタ認知能力を高める指導法を検討する。 ①早い段階で科目を絞り込むことないよう指導する。 ①常に最新の大学状況を把握する研	①卒業生のOB・OGによるチューター学力支援は本校ならではの取り組みである。生徒の良き相談相手であった。 ①今年度の積極的な取り組みが成果につながることを期待している。 ①目先の安定策にとらわ	①外部試験のデータやオンラインを活用した進路指導等を行い、上級学校に対する生徒の理解を深めることができた。 ②二・三者面談等とおして、進路・進学情報について過不足なく提供するとともに、「ともに考える」という姿勢で臨んだ。また、「進路の手引き」の	①今後も学校内だけでなく、学校外のデータも活用しながら難関大学、スーパーグローバル大学への進学に向けた進路指導を行う。 ②今後も生徒・保護者との連絡を密にとり、個に応じた進路実現を目指して、組織的に指導にあたる。

視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月29日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	(2) 高い次元での自己実現を目指す生徒の学びに向かう力・キャリア能力を高めるガイダンスの充実と学習環境の整備	論理的な思考力、グローバルな視点の獲得への観点・取組の強化 ①教員一人ひとりの進路指導力を高める研修等の充実。 ②セルフガイダンス力を高める機会の提供や環境の充実	や高大接続に係る校内研修を実施する。 ①②大学や企業等と連携し、深い知識や高いレベルの技術に触れる機会を提供し、自律的な学習を促す。 ③講習等の学習環境整備と内容の充実を図る。	か。 ②生徒が上級学校等の学問や研究について、またグローバル企業等の技術に触れる機会を設けたか。 ③夏期講習、土曜講習の受講者数を増やすことができたか。	実施した。面談等で資料や模試活用方法を伝え進路実現を支援した。 ②夏期講習1年生の平均受講者数は294名(昨年218名)、全学年平均受講者数は854名(昨年594名)、土曜講習は、対象学年拡大、学習環境整備で、受講者数が123名(昨年99名)に増加した。	修会を実施する。 ①チューターやモデリング等、本校の人的資源を積極的に活用する。 ②講習環境整備を継続、平均受講者数(延べ人数)だけでなく、受講者の実数を把握するなど、多角的に分析し、より多くの生徒が参加できるような方策も検討する。	れず、将来を見据えた総合的な学力を養うことが望まれる。国公立後期日程に最後まであきらめず、チャレンジしてほしい。そのことが必ず学校力の底上げにつながると考える。	利用方法や各種「模試」の具体的な活用法などを伝えることで進路の実現に向けて支援した。 ②夏期講習、土曜講習の充実を図り、参加生徒数は共に昨年比増となった。	②学校での講習環境整備を行い、さらに参加者が増えるよう工夫したい。
4	地域等との協働	(1) 外部人材の活用やSSHの取組成果等の小中学校等への発信と提供 (2) ホームページによる教育活動、教育成果の発信をはじめとする広報活動の充実 (3) 本校教育活動のネットワークの拡大	①生徒による小中学校等への教育提供や外部機関との連携の場の創出 ②ホームページの充実と、迅速で適切な情報提供のための体制の整備 ③地域や同窓会、PTA、等の組織と連携した安全教育・防災教育等の取組の推進 ④学校運営協議会における評価の活用	①参加者アンケートの回答から満足していることがうかがえたか。教育活動を支援していただける企業等を開拓できたか。 ②ホームページの内容に創意工夫が見られたか。 ③地元自治会やPTAと連携した防災訓練等を実施できたか。	①生徒発表会後のアンケートでは、84.7%の参加者が「関心を持った」と回答した。活動支援のため外部講師を招いて講演会等を行なった。 ②ホームページは学校紹介動画や「情熱メラーキ」を掲載し、積極的に情報発信した。 ③PTA校外委員と協力して、生徒の自転車点検を実施し、安全性を高めた。	①感染状況を見ながら、成果普及する機会を設けると共に、探究活動を支援する人材確保に努める。 ②感染状況を見ながら、「多摩高へ行こうの日」など、地域に開かれた授業公開を行う。 ③新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、地元自治会と連携した防災訓練等を企画する。	①コロナの影響で例年通りの活動ができないことはやむを得ないが、将来に向けた具体的な取組も検討したほうが良い。 ②HP活用で今後も積極的な情報発信に努めてほしい。 ③ホームページの随時更新を望む。専門部署が対応しているのか。ホームページは学校の顔。校長の熱い思いは勿論、中学生・保護者にとっても関心が高いものである。情報が古ければ逆効果にもなりうる。	①本校生徒の学習活動の成果を近隣の教育機関等で披露することができた。 ②ホームページでは本校の特色について積極的に情報発信を行なった。一方で一部更新が滞っているコンテンツもあった。 ③コロナ感染防止のため、DIGを中心とした防災訓練を実施する際、例年のように地元自治会と連携できなかった。 ④PTA校外委員と協力して、生徒の自転車点検を実施し、安全性を高めた。	①今後も外部人材などを活用し、本校生徒のSSHへの取組を効果的に発信できるよう生徒の指導にあたる。 ②情報発信については、常にアップデートを心掛け、最新の情報を掲載できるようにする。 ③新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、地元自治会と連携した防災訓練等を企画する。
5	学校管理 学校運営	(1) 企画会議の機能の拡大による職員の経営参画意識の向上と人材育成 (2) 教員が教育に係る時間を確保する働き方改革の推進 (3) 計画的・効率的で適正な予算執行と学校環境の整備 (4) 事故不祥事防止の徹底	①企画会議と各組織・職員との双方向の情報共有を深め、全職員の学校経営参画意識を高める。 ②ICTの利活用を組織的に推進し、会議や資料作成・配付などの効率化を図る。 ③グラウンド整備・外構工事に伴う教育活動及び安全確保を図る。 ④事故防止会議や研修を計画的かつ効果的に実施する。	①企画会議の内容を迅速に職員全体に周知することで課題を共有し、課題に応じた人材招集、意見聴取を行う。 ③グラウンド整備・外構工事に伴い、授業、行事、部活動等が円滑に行えるよう調整する。	①② ICT利活用を組織的に推進し、会議資料作成・配付などの効率化を図ると共に、全職員の学校経営参画意識を高めた。 ③グラウンド整備工事に伴い、グループ及び事務室が連携し、生徒の安全確保と円滑な工事を行った。 ④県費・私費の予算や決算、執行、業者選定等が適切に行われ、公費と私費の区分が徹底され、適切な予算執行が図られた。	①②新しい校内連絡システムを導入し、業務改善につなげる。 ③今後の外構工事に備え、登下校ルート計画、安全計画を推進する。 ④予算請求内容を洗い直し学校全体の優先順位の高いものから予算案作成し執行事務改善を検討する。	①教職員の負担を減らし、心身ともに健全にいられる職場環境づくりをお願いしたい。特定の教員に業務が集中しないシステムづくりを期待する。 ①若手職員が意欲的に取り組める組織づくりをしてほしい。仕事を抱えきれずに失敗するケースはよくある。これからの教育を担う若手職員への配慮をお願いしたい。 ①②③④適切な管理運営がなされたと感じている。	①②全職員の学校経営参画意識を高めるためにICTの利活用を進め、学校目標達成に向けた取組を職員全体で共有できるよう工夫した。 ③整備工事に伴い、管理職、グループ及び事務室が連携して、生徒の安全確保と工事が円滑に進めるよう努めた。 ④会計業務については、県費・私費の予算や決算、執行、業者選定等が適切に行われた。また、適切な予算執行が図られた。	①②今後もICTを活用し、業務改善や効率化を図る。 ③今後のテニスコート整備工事や外構工事に備え、生徒の安全を最優先し、工事が円滑に進むよう事務室や管理職で情報共有しながら進める。 ④予算請求内容を精選し、優先順位の高いものから対応できるよう執行事務を検討する。